



POINT I
知・技

教科書を単元の入り口として活用する

小学校3学年の社会科は、地域社会の様子や生産・販売の仕組みなど、身近な社会事象を対象としている。それらについて、文章や写真、グラフ、地図などの資料から必要な知識や情報を読み取り、問題に答えたり、課題解決のために活用したりすることに高いハードルを感じることもあるのではないだろうか。教科書は子どもたちに最も身近な資料であり、分かりやすく作られた資料と言えるだろう。「社会的事象について調べまとめる技能」を高めるため、教科書を「最良の資料」として、ワークシートやロイロノートを活用しながら、興味をもって学習に取り組む実践例を紹介する。

【実践のねらい】

- ①教科書の文章や統計資料を丁寧に読み解くことで、単元の基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。
- ②文章、写真、グラフ、地図から、必要な情報を正しく探し出し、読み取る力を養う。
- ③ICTツールと対面での対話を組み合わせ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還させる。

I 教科書と連動した「問い」の設計

- (1) 本文読解問題：教科書の記述と資料との関連を見付ける。

問い「この記述は、どの資料のことを言っているのかな？」

見学メモ

- ・売り場に看板がついている。
- ・通路が広く品物がきれいに並べられている。
- ・品種は、種類ごとにまとめられて売られている。

店内の
看板の写真

- (2) 資料の活用：資料を使って問いをつくる。

事故の数の
グラフ

事件の数の
グラフ

住む人の数の
グラフ

問い「事件と事故はなぜ、減ってきているのだろうか？」

2 ツールを活用した学習形態の工夫

ロイロノートを使用することで、学習状況に応じた柔軟な学びに活用できるだろう。

- (1) 個人学習

ロイロノートで配布されたカードに、教科書を見ながら自分のペースで解答を記入する。じっくりと資料に向き合うことができるだろう。

- (2) ペア・グループ学習

自分のカードを友達と見せ合い、見落としていた写真の細部や記述を教え合う活動にもつながるだろう。

1. あまおうのしゅうかくはどのように行われますか？
手作業

2. しゅうかくしたあと、どうしますか？
パックにつめる。

3. あまおう農家の久保さんの話からパック詰めされたあまおうはどこに行きますか？
中央おろしうり市場 → スーパーマーケット

4. 西区でつくられたいちごは福岡市以外にどんなところに送られますか？
ほかの県や市、ホンコン

5. 久保さんはどんな思いをもっていちごづくりをしていますか？
これからおいしいあまおうを大切にそだてたいですし、たくさんの人に食べてほしいと思います。
○これまでの学習(あまおうを育ててお贈りするまで)からわかったことや考えたことを書きましょう。
農家の人がたくさんくろうして育てていることがわかった。
冬にも育てていることにおどろいた。
他の野菜についてもどう育てているか見てみたいと思った。

【実際に子どもが解答したカードの例】

自己選択で自らデザインする社会科へ

音更町立柳町小学校 教諭 遠藤 広夢



POINT 2

態度

自己選択・自己決定で自らデザインする社会科へ

社会科の学習において、単に知識を身に付けるだけでなく、「何を、誰と、どのように学ぶか」を子ども自身が決定する場面を設定することは、主体的な学びを支える上で重要な要素ではないだろうか。

学習の個性化を念頭に置き、3学年の単元「働く人と私たちの暮らし」において、学習における内容・形態・表現を子どもの選択に委ねる試みを紹介する。

「自己選択・自己決定」の3つの柱

子どもが意欲を持続させ、責任をもって学習に取り組めるようにした。

1 【内容の選択】「何を調べるか」

単元の大きな問い（学習問題）に対し、子ども自身がより深く追究したいサブテーマを選択する。サブテーマについては、社会科見学後に子どもたちの疑問や予想を出し合う中で、学びたいもの、興味があるものが出てくる。

例：スーパーマーケットの見学を通して、「品物の工夫」「バックヤードの秘密」「働く人の思い」など、興味の対象に合わせた個人テーマを設定する。

こちらから上記の選択肢を提示することも子どもたちの実態に応じて有効であるだろう。自ら学習を進めるテーマを決めて活動に取り組むことで、主体的に考えながら学習を進めることができるだろう。

2 【形態の選択】「誰と学ぶか」

学習の進め方を、子ども自身がそのときの心理状態やニーズに合わせて選択する。

【一人でじっくり】

自分のペースで資料を読み込み、思考を整理したい子ども

【ペア・グループで】

友達と対話しながら情報を補完し、考えを広げたい子ども

【教師と一緒に】

次に調べたらよいことを教師と相談しながら調べ学習を進めたい子ども

3 【表現の選択】「どのようにまとめるか」

子ども自身が、調べたことを他者に伝える際のアウプット方法を選択する。

【スライドやロイロノートのカード】



【手書きの新聞・ポスターの例】

今回紹介した実践では、様々な興味・関心をもつ子どもがいたが、それぞれが自分のペースで学ぶことができていた。社会科が苦手な子どもも、自分の選択した方法で教師や友達と活動することを通して、安心して学ぶことができたのではないだろうか。